

令和元年7月22日 石油コンビナート等防災計画進行管理検討部会(第4回)における御意見と対応まとめ

| 該当資料 | 御意見 | 対応 |
|---|---|---|
| 資料2 第2期対策計画 (平成30年度分)の 進捗状況について [公表資料案] | <p>■重点1 ・緊急遮断弁の設置に関して、代替措置も重要である一方、最終的にはやはりハード対策による対応を目指すものとする。</p> | 御意見を踏まえ、文章中の表記を修正 |
| | <p>■重点1 ・緊急遮断弁の設置に関して、1万kL以上のタンクには義務づけられているのに対し、本計画では500kL以上のタンクへの設置を進めていることは、1つのアピールポイントである。文章中でもっと目立つように表記してはどうか。</p> | |
| | <p>■参考3 ・6-1の事例は、内容を見るとBCPの策定・見直しとは受け取りづらい。 広く見ると、BCPというよりBCMの観点と受け取ることもできる。もう少し説明が必要ではないか。</p> | |
| | <p>■重点6 ・BCPの策定・見直しについて、BCPを策定していない事業者と、BCPを策定しているものの見直しはしていない事業者と区別がされていない。 今後、BCPについては全社での策定を進めるべきものなので、取組を促進する意味でも、区別した方がよいのではないか。</p> | 今後、実績報告書の様式を修正し、BCPの策定状況も把握できるようにする。 |
| 資料3 今後の方向性 について | <p>■1 第3期対策計画の検討について ・アンケート項目No.3の「小規模タンクの漂流対策」について、スケールと利用状況から考えても、油高管理は現実的でない面もある。強度確保を対策とするのか、またその場合の判断基準をどうするのか、評価が難しいのではないかと考える。</p> | 御意見及び現在実施している事業者アンケートの結果を踏まえ、今後検討していく。 |
| | <p>■1 第3期対策計画の検討について ・アンケート項目No.4の「毒性ガスの漏えいに備えた初動体制の整備」について、物質として何を対象とし、濃度基準として何を採用するのか、などの指針が必要となる。 ・実際に、物質ごとに詳細な数値を設定していくことは相当困難かと思われる。</p> | |
| | <p>■2 防災本部の今後の取組みについて ・災害において、情報の収集及び広報は非常に重要である。重要なポイントは、①他の事例を参考に有効な手段を整理すること、②事象の把握・報告・受け手の判断基準を明確にすること、③危機意識に関する住民啓発が伴っていること、である。 ・事業者と行政の広報の関係については、出す情報の内容など十分に整理が必要 ・詳細な検討が必要な内容なので、部会の中にWGを作って議論してはどうか。</p> | 御意見を踏まえ、広報のあり方や内容については、事業所及び関係機関と、今後調整等行い、検討していく。 |

| 該当資料 | 御意見 | 対応 |
|---|---|---|
| 資料4-1 石油コンビナート地区 の今後の津波避難 対策について | <p>■これまでの取組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの取組状況も考慮すると、やはりワークショップの開催は有効な手段と考える。行政からのアプローチは一定必要と考えるので、継続して進めるべき。 | 御意見を踏まえ、地元市と連携し、取組みの継続・充実を図る。 |
| 資料4-2 石油コンビナート地区 における津波避難 計画作成率 | <p>■課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内陸への避難を考えたとき、高石大橋周辺のアンダーパスは、昨年の台風第21号でも浸水するなど、津波発生により通行が困難となると想定される。 | 御意見を踏まえ、適切な避難ルートに関する情報提供について検討していく。 |
| | <p>■今後の取組方針案について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津波避難ビルは、水平避難や自社避難、周辺への避難等の手段を尽くした上での、最終的な一時避難場所であり、避難先の第一候補という考え方を多くの事業所がしているのであれば、周知が必要。避難場所のキャパを超える避難者が出る場合は、地区全体としてバスの巡回をするなども考えられる。大学との連携の中で、地区全体の避難シミュレーションなどできれば有効ではないか。 ・大学として連携できる内容は今後検討したいと考えており、事務局と調整していく。 | 御意見を踏まえ、事業者への周知方法なども含め、大学との連携による取組み等を進めていく。 |